

# GL Sciences

## 第47期報告書

平成25年4月1日～平成26年3月31日



Gas Chromatography



GLOBAL SOLUTION



Sample Preparation



Liquid Chromatography

# To Our Shareholders

## 株主の皆様へ

平素より格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

ここに第47期（平成25年4月1日～平成26年3月31日）の営業の概況などにつきましてご報告申し上げます。

当社は製品開発力を強化するため、埼玉県入間市の総合技術センターに研究施設を増設いたしました。製品開発力を強化し、開発の精度向上とスピードアップを図ってまいります。

期末配当金につきましては、「利益は、会社、株主、社員、社会に公正に分配する」の経営理念に則り、2円増配し1株当たり32円とさせていただきました。

今後につきましても引き続き不透明かつ厳しい経営環境が予想されますが、市場のニーズに合った製品の開発を進めるとともに、マーケットシェアの拡

大に努め、高い収益性を確保し続けられるようさらに努力してまいります。

株主の皆様におかれましては、何卒ご理解の上、今後とも一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年6月



取締役社長

外丸 勝彦

## 業績ハイライト(連結)



(単位:百万円)



(単位:百万円)



(単位:百万円)

# Operations Review

## 当期連結業績の概要

### ■ 当期の概要

当連結会計年度における世界の経済環境は、米国経済が緩やかな回復基調にありましたが、中国及び新興国経済の成長鈍化などにより、先行き不透明な状況で推移しました。

国内では、政府による金融政策や経済政策等により円安・株高傾向が継続する中、消費税率の引き上げに伴う駆け込み需要もあり、大企業を中心に景気回復の気運が高まる一方で、輸入品価格の上昇が懸念され、景気の先行きには不透明感が残りました。

このような経済環境のもと、当連結会計年度の売上高は、分析機器事業は微増にとどまりましたが、半導体事業や自動認識事業が前連結会計年度を大幅に上回ったことにより、18,579百万円（前連結会計年度比11.0%増）となりました。

損益につきましては、営業利益は1,316百万円（前連結会計年度比25.5%増）、経常利益は1,431百万円（前連結会計年度比26.3%増）、当期純利益は777百万円（前連結会計年度比47.9%増）となりました。



(単位:円・銭)



(単位:百万円)



(単位:百万円)

## ■セグメント別概要

当連結会計年度におけるセグメントの業績は次のとおりであります。

### ●分析機器事業

装置につきましては、第4四半期より回復し始め、自社製特注装置や自社製ガスクロマトグラフ（GC）が前年同期を上回りましたが、バイオ市場向けの他社製大型装置や他社製液体クロマトグラフ（LC）装置などが低迷しました。

消耗品につきましては、LC用自社製充填カラムの売上が、前年同期と比べ国内では微増、海外では大幅に上回りました。

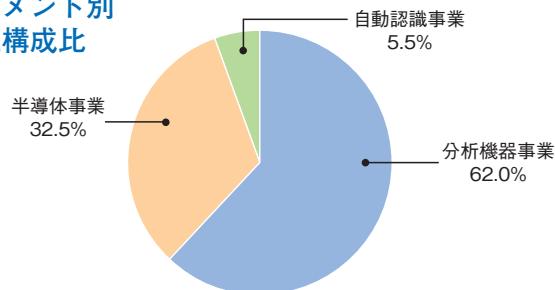
### ●自動認識事業

「モジュール」は前年同期を上回ることができました。「完成系製品」は前期低迷した「XR01・XR10シリーズ」が回復し、インテリジェントターミナル「XP35C6シリーズ」は第4四半期によりやく複数案件に採用・出荷が開始され、大幅増となりました。「タグカード」は堅調に推移し、「ソリューション」は第4四半期の大型案件の受注により大きく上回りました。

### ●半導体事業

当事業の半導体製造プロセスの前工程で使われる消耗品（石英・シリコン製品）につきましては、国内市場は事業再編の渦中であって、受注・売上高共に一年を通じ総じて低迷した状況が続きました。海外市場では、アジア地域を中心に大型投資が継続したことから、受注は第2四半期から第3四半期にかけて急速に回復しました。

### セグメント別 売上構成比



	売上高(百万円)			営業利益又は営業損失(△)(百万円)		
	前連結会計年度	当連結会計年度	前期比(%)	前連結会計年度	当連結会計年度	前期比(%)
分析機器事業	11,352	11,504	1.3	588	508	△13.7
半導体事業	4,531	6,045	33.4	487	766	57.2
自動認識事業	856	1,029	20.2	△27	38	—
小計	16,740	18,579	11.0	1,048	1,313	25.3
消去又は全社	—	—	—	0	2	—
合計	16,740	18,579	11.0	1,048	1,316	25.5

## ■次期の業績見通し

### (分析機器事業)

開発力強化・開発のスピードアップを目的として、次期は総合技術センター（入間市）に当期新設した1棟を稼働し、福島工場内に1棟を新設、稼働いたします。

市場へのよりタイムリーな製品投入を行うため、マーケティング部門の組織変更を行い、市場マーケットと製品マーケットの両面からマーケティングを展開してまいります。

また、海外販売を強化するため、オランダの現地法人の機能強化を図り、欧州における物流・新規市場開拓及び顧客サポートの拠点とすることで、顧客満足度と売上の増加を図ります。

### (半導体事業)

既存顧客の深耕や、成長が見込まれるアジアや米国地域を中心に新規需要の掘り起こしに努めてまいります。また、450mmウエハや微細化投資等の顧客ニーズに対応すると共に、引き続き原価低減を推進してまいります。

### (自動認識事業)

責任の明確化と経営判断の迅速化を推し進め、人材を活性化することにより、さらなる躍進を図ります。自動認識事業は大きな未開拓分野があるものと捉えており、これらにいかにより有効な製品・システムを提供していけるかを意識して活動してまいります。

平成27年3月期の連結業績の見通しにつきましては、それぞれ次のとおりです。

### (連結業績の見通し)

売上高	18,012百万円	(前連結会計年度比 3.0%減)
営業利益	836百万円	(前連結会計年度比 36.4%減)
経常利益	856百万円	(前連結会計年度比 40.2%減)
当期純利益	498百万円	(前連結会計年度比 35.9%減)

# Approach to the Environment

## 環境への取り組み

当社は、地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであり、環境負荷低減の取り組みが企業の継続及び発展にとっても必要不可欠であることを認識し、環境保全に配慮した企業活動を通じてより良い社会の実現に貢献します。

### ■製品を通じての環境貢献

当社はクロマトグラフィー関連の消耗品を多く取り扱っておりますが、環境に配慮した製品の開発・販売にも努力をしております。例えば下記に取り上げたような製品群を使用していただくことによって環境負荷を低減することができます。なお、これら製品の販売数や既存製品に占める割合は増加傾向にあります。

- 従来の分析法では、前処理の段階で多量の溶媒を使用していたものを、当社の取扱製品である固相抽出カラムを使用した分析法に切り替えることにより、溶媒使用量の削減に貢献いたします。
- 液体クロマトグラフ（LC）の分析で使用するカラムにおいては、使用溶媒が少なく済む内径の小さい“セミマイクロLCカラム”や、使用溶媒が少なく、分析時間を短縮してエネルギーの削減に貢献する“UHPLC対応カラム”及び“MonoCap”など、環境に配慮した製品の販売に努力しております。

—固相抽出関連製品—



—環境にやさしいHPLCカラム—



### 分析機器事業

#### 試料前処理 インストルメンツ&ソフト・パーツ

GCやLC（後述）の機器分析装置、特にGC/MS、LC/MSにおいての高感度化は、分析基準値の見直し要求に準拠し、近年数段の進展を見せております。その装置感度の向上に不可欠な技術が分析試料の前処理・濃縮導入技術になります。高感度分析装置に分析試料を導入する際、ターゲット成分の濃縮ができれば、分析可能な低濃度試料の領域が無限大に広がっていきます。

水道水質基準検査法に盛り込まれた、低濃度基準値のカビ臭気物質や揮発性有機化合物の分析用に新たに販売を行った「AquaPT 6000」は、重要な製品として位置付けられ、水質分析用全自動固相抽出装置である「AQUATrace ASPE799」は、現在まで多くのお客様にご利用いただいております。

また、水質分析における試料前処理に有効な「固相加圧送液装置 AQUALoaderⅢ」をラインアップしており、さらなるニーズへの対応に心がけています。

装置販売に限らず、装置同様に高度の知見を必要とする消耗製品群で、弊社オリジナルブランド“イナートファミリー”の一つである「イナートセップ」は、多様化するニーズ・環境水質市場・食品市場をターゲットに、新製品を開発・発売し、一段の売上増を進めております。



パージ・トラップ濃縮導入装置 AquaPT 6000



固相抽出カラム  
InertSep® シリーズ

水質分析用全自動固相抽出装置  
AQUATrace ASPE799

## ガスクロマトグラフ インストルメンツ&ソフト・パーツ

ガスクロマトグラフ（GC）は、試料を気化して分離・定量する分析法で、ガス成分分析から溶剤等の気化しやすい成分群の分析に適しています。その特長により、素材等の成分分析から水質・大気・土壌等の環境分析に至るまで大いに利用されております。特に弊社製品は日本の環境行政に適応・貢献すべく、年々基準値が見直されている公定分析法にも迅速に対応しております。

昨年に新型ガスクロマトグラフ「GC-4000 Plus」を発売しました。

EPFC（電子式圧力・流量制御機能）、ガスセーブ、FIDオートレンジなどの機能が新たに追加され、お客様のさらなるニーズに応えております。

また、弊社オリジナルブランド“イナートファミリー”の一つである「イナートキャップ」は、ニーズに合わせて多くのラインアップを取り揃え、一段の売り上げ増を進めております。



シリカモノリス捕集剤 MonoTrap®



GCキャピラリーカラム InertCap® シリーズ



ガスクロマトグラフ GC-4000 Plus

香気成分をターゲットとし、食品・環境における簡易濃縮分析やスクリーニング分析用として、弊社が誇るモノリス技術を利用した「MonoTrap（モノトラップ）」を発売しており、お客様のニーズに合わせた安価で手軽な濃縮分析を可能にしました。

米などの食品中の重金属分析や、産地判別のための金属分析など、金属元素を分析するニーズが多くなってきています。

弊社では、金属分析で必須な酸分解の前処理ツールや、金属を特異的に補足する高選択性分子認識ゲルなどでお客様の分析をサポートしています。



米中Cd分析前処理システム

## 液体クロマトグラフ インストルメンツ&ソフト・パーツ

液体クロマトグラフ（LC）は、試料を液体の状態にて分離・定量する分析法で、GC分析ではカバーしきれない沸点の高い化合物や熱で分解しやすい化合物の分析等に適しています。化合物の多くがLCに適しており、食品・製薬・バイオなどの分野で用いられています。研究施設に設備される分析機器導入伸び率もLC・LC/MS・LC/MS/MSは極めて高く、需要層もバイオ・ライフサイエンス市場を筆頭に近年、高性能自動分析装置の需要が強く、弊社においてもその要求に応えられる装置を取り揃えております。

弊社では、お客様のニーズに合わせてもっとも需要が多い汎用HPLC「GL7700」をはじめ、高速・高分離・高感度を実現した「Smart HPLC システム LC800」、使いやすいソフトウェア設計の分取HPLC「PLC 761」をラインアップしています。

また、HPLCで使用するカラムとして新たに「InertSustainSwift C18」を発売しました。高速分析に対応し、高不活性・高耐久性を実現するカラムです。



HPLC GL7700



Smart HPLC システム<sup>®</sup> LC800



InertSustainSwift<sup>™</sup> C18



分取HPLC PLC761

# Consolidated Financial Statements

## 連結財務諸表

### ●連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前々期 (24.3.31現在)	前期 (25.3.31現在)	当期 (26.3.31現在)
流動資産	14,359	14,336	16,058
固定資産	8,528	8,505	9,189
流動負債	6,231	5,650	6,468
固定負債	1,615	1,329	1,572
株主資本	13,750	14,122	14,744
純資産合計	15,042	15,862	17,206
負債純資産合計	22,888	22,841	25,248

### ●連結損益計算書

(単位：百万円)

	前々期 (23.4.1~24.3.31)	前期 (24.4.1~25.3.31)	当期 (25.4.1~26.3.31)
売上高	16,509	16,740	18,579
売上原価	11,033	10,822	11,878
売上総利益	5,475	5,918	6,701
販売費及び一般管理費	4,532	4,869	5,384
営業利益	943	1,048	1,316
経常利益	969	1,133	1,431
当期純利益	609	525	777

### ●連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前々期 (23.4.1~24.3.31)	前期 (24.4.1~25.3.31)	当期 (25.4.1~26.3.31)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,474	1,808	706
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 414	△ 647	△ 460
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 370	△ 692	△ 135
現金及び現金同等物の期末残高	2,960	3,480	3,656

より詳細な財務情報は、当社ホームページの「投資家情報」で各種資料がご覧いただけます。

URL:<http://www.gls.co.jp/> ジェルサイエンス 投資家情報

検索

# Company Profile

## 会社の概況 (平成26年3月31日現在)

●商号 ジーエルサイエンス株式会社  
●証券コード 7705 (東証第二部)  
●本社所在地 東京都新宿区西新宿六丁目22番1号  
●設立 昭和43年2月1日  
●資本金 1,207,795千円  
●役員  
(平成26年6月25日現在)

取締役社長 外丸 勝彦  
常務取締役 奥山 雅司  
取締役 梁 正一  
取締役 黒川 利夫  
取締役 長見 善博  
取締役 山下 俊一  
常勤監査役 野口 一英  
監査役 籠原 一晃  
監査役 三富 則栄

●従業員数 382名  
●主な事業

・ガスクロマトグラフィー／液体クロマトグラフィー  
装置・前処理装置・部品・充填剤・分析カラム・固相・周辺機器  
・分光光度計用セル、石英加工品  
・半導体関連分析装置  
・バイオ機器・部品  
・その他すべての関連製品

●関係会社  
(平成26年6月25日現在)

テクノオーツ株式会社  
株式会社グロース  
ジーエルソリューションズ株式会社  
杭州泰谷諾石英有限公司 (中国)  
GL Sciences B.V. (オランダ)  
GL Sciences, Inc. (米国)  
GL TECHNO America, Inc. (米国)  
鳥津技迹(上海)商貿有限公司

## 株式情報

### ●株式の状況

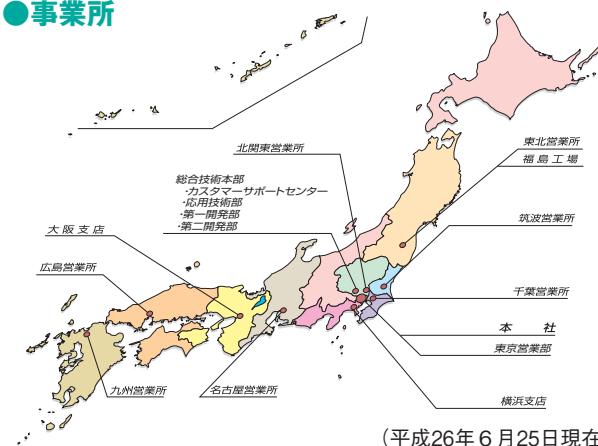
発行可能株式総数	22,380,000株
発行済株式の総数 (自己株式464,903株を除く)	5,130,097株
株主数	1,117名

### ●大株主 (自己株式を除く)

株主名	持株数	持株比率
ジーエルサイエンス従業員持株会	682,186株	13.3%
株式会社島津製作所	290,000株	5.7%
森 禮子	253,047株	4.9%
株式会社三菱東京UFJ銀行	249,100株	4.9%
株式会社山口銀行	248,000株	4.8%
株式会社みなと銀行	222,000株	4.3%
東京中小企業投資育成株式会社	212,850株	4.1%
公益財団法人世界自然保護基金ジャパン	200,000株	3.9%
HSBC BANK PLC-MARATHON VERTEX JAPAN FUND LIMITED	172,400株	3.4%
山川 義弘	126,000株	2.5%

(注) 持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

### ●事業所



## 株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
同総会議決権行使 株主確定日	毎年3月31日
期末配当金支払 株主確定日	毎年3月31日（中間配当は行っていません。）
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-232-711（フリーダイヤル）
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL <a href="http://www.gls.co.jp">http://www.gls.co.jp</a> (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

### (ご注意)

1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。